

日本語研修コース

深見兼孝

[修了者]

第46期生名簿（2008年4月～2008年9月）[9名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Xavier, Andre Nogueira	アンドレ	ブラジル	言語学	広島大学
Das, Asim	オシム	バングラデシュ	教育学	広島大学
林文城	リンブンチェン	マレーシア	医学	広島大学
Saptoka, Sabitri	サビトリ	ネパール	公衆衛生学	広島大学
Marcos, Paulo Berteli Slomp	マルコス	ブラジル	コンピューター サイエンス	広島大学
Assi Mouhammad	ムハメド	シリア	機械工学	広島大学
Heng Kreng	ヘンクレン	カンボジア	国際開発	広島大学
林宝尉	リンホウイ	中国	情報工学	広島大学
劉安	リュウアン	中国	複雑システム工学	広島大学

[修了者]

第 47 期生名簿 (2008 年 10 月～2009 年 3 月) [21 名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Nanik Dwi Astutik	ナニック	インドネシア	日本語教育	広島大学
Ho, Win Nie	ウィンニー	シンガポール	理科教育	広島大学
Lee, Kyoung Sook	イー	韓国	異文化間教育	広島大学
Tabora, Marlon Laxa	マルロン	フィリピン	理科教育	広島大学
Khin Thandar Kyaw	キン	ミャンマー	数学教育	広島大学
Sanchez, Marlise Gabriela	マーリーゼ	コスタリカ	比較教育学	広島大学
Sanchez, Montes Rocio	ロシオ	メキシコ	生涯教育	広島大学
Rasoanaivo, Nirina Olga	ニリナ	マダガスカル	数学教育	広島大学
Lapid, Liron	リロン	イスラエル	心理学	広島市立大学
Grechanaya, Evgenia Vladimirovna	エウゲニア	ロシア	教育学	広島大学
Koyangko, Anita Sarah	アニタ	パプアニューギニア	政治学	広島大学
Soejoso, Mia Wimala	ミア	インドネシア	土木工学	広島大学
Erwin Widodo	ウイドド	インドネシア	情報工学	広島大学
Chansomphou, Vatthanamixay	バッタナミサイ	ラオス	国際開発	広島大学
Kwiecinski, Krzysztof	クシュシュトフ	ポーランド	経済学	広島大学
Mbayo Alex	アレックス	シエラレオネ	平和学	広島大学
劉利雲	リュウリウン	中国	農学(草地学)	広島大学
張 叢	チョウトウ	中国	経済学	広島大学
Murdika Umi	ウミ	インドネシア	情報工学	広島大学
賈 蕾	カレイ	中国	経済学	広島大学
董 立先	トウリッセン	中国	健康教育学	広島大学

## 講師一覧

### 第46期（2008年4月～2008年9月）

専任 浮田三郎 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 石井敬子 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄

#### [専門用語解説]

大野修一(工学研究科) 落合俊郎(教育学研究科) 金田和文(工学研究科) 菊池章(医歯薬学総合研究科) 小林俊生(保険学研究科) 佐伯正美(工学研究科) Skaer Peter Mackall(総合科学研究科) 平嶋宗(工学研究科) 堀田泰司(国際協力研究科)

### 第47期（2008年10月～2009年3月）

専任 浮田三郎 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 石井敬子 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄

#### [専門用語解説]

石井良昌(教育学研究科) 河合研至(工学研究科) 川野徳幸(原爆放射線医科学研究所) 古賀信吉(教育学研究科) 小山正孝(教育学研究科) 実岡寛文(生物圏科学研究科) 篠田英明(平和科学研究センター) 鈴木基義(国際協力研究科) 鈴木喜久(社会科学研究科) 高橋勝彦(工学研究科) 竹下俊治(教育学研究科) 中村春作(教育学研究科) 中矢礼美(教育学研究科) 永山博之(社会科学研究科) 畑佐由紀子(教育学研究科) 藤田聡(工学研究科) 藤村好美(教育学研究科) 松浦拓也(教育学研究科) 松田正彦(社会科学研究科) 矢野順治(社会科学研究科) 山口武志(教育学研究科)

第46期（2008年4月～2008年9月）予定表

期日	行事／試験等	見学(総合演習)	備考
4/7-4/11	4/8(火)13:00オリエンテーション(K308) 4/9(水) 11:00開講式(教育学部第3・4会議室)		4/9(水) 11:30ホストファミリー案内(K308) 4/10(木)・4/11(金) 16:20全学留学生オリエンテーション(教育学部K201)
4/14-4/18			
4/21-4/25		4/25(金) 広島市	4/25(金) 17:30ホストファミリー対面式
4/28-5/2			4/29(火)昭和の日(祝日) 5/3(土)憲法記念日公(祝日)
5/5-5/9			5/5(月)こどもの日(祝日)・5/6(火)振り替え休日(←5/4緑の日)
5/12-5/16			
5/19-5/23		5/23(金) 宮島	
5/26-5/30			
6/2-6/6	6/5(木)中間試験・専門用語解説開始		
6/9-6/13			
6/16-6/20			
6/23-6/27			
6/30-7/4		7/4(金) マンダ	
7/7-7/11			
7/14-7/18			
7/21-7/25			7/21(月)海の日(祝日)
7/28-7/31	7/31(木)期末試験・特別講義		
8/1-8/31	夏休み		
9/1-9/4	9/1(月)-9/3(水)特別講義 9/4(木)13:30修了式・研修成果発表会(教育学部第3・4会議室)		

第47期（2008年10月～2009年3月）予定表

期日	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
10/6-10/10	10/7(火) 13:00コースオリエンテーション (K308) 10/8(水) 11:30開講式(教育学部第3・4会議室)		10/8(水) 12:00ホストファミリー案内(K308) 10/10(金)16:20全学新入留学生 オリエンテーション(K108)
10/13-10/17			10/13(月)体育の日(祝日)
10/20-10/24		10/24(金) 広島市	10/24(金) 17:00ホストファミリー対面式
10/27-10/31			
11/3-11/7			11/3(月)文化の日(祝日)
11/10-11/14	11/13(木)「専門用語解説」開始 (～1/22)	11/14(金) 宮島	
11/17-11/21			
11/24-11/28			11/24(月) 振替休日(勤労感謝の日)
12/1-12/5	12/4(木)中間試験		
12/8-12/12			
12/15-12/19			
12/22-12/23			12/23(火)天皇誕生日(祝日)
12/24-1/7	冬休み		1/1(木)元日(祝日)
1/8-1/9			
1/12-1/16			1/12(月)成人の日(祝日)
1/19-1/23		1/23(金) マツダ	
1/26-1/30			
2/2-2/6			
2/9-2/13			2/11(水)建国記念の日(祝日)
2/16-2/20	2/19(木)期末試験		
2/23-2/27	2/23(月)～27(金)特別講義		
3/2	3/2(月) 13:30修了式(教育学部第3・4会議室) 14:00成果発表会(“ ”)		

日本語教育部門：日本語・日本事情  
 (2008年4月～2009年3月)

田 村 泰 男

1. 授業科目一覧  
 ・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	
総合日本語中級ⅠA	1	2		
総合日本語中級ⅠB	1	2		
総合日本語中級ⅠC	1	2		
総合日本語中級ⅠD	1		2	
総合日本語中級ⅠE	1		2	
総合日本語中級ⅠF	1		2	
総合日本語中級ⅡA	1	2		
総合日本語中級ⅡB	1	2		
総合日本語中級ⅡC	1	2		
総合日本語中級ⅡD	1		2	
総合日本語中級ⅡE	1		2	
総合日本語中級ⅡF	1		2	

日本語聴解特別演習 A	1	2	
日本語聴解特別演習 B	1		2
日本語分析特別演習 A	1	2	
日本語分析特別演習 B	1		2
日本語表現特別演習 A	1	2	
日本語表現特別演習 B	1		2
日本語古文特別演習 B	1	2	
日本語古文特別演習 B	1		2
日本語語彙特別演習 A	1	2	
日本語語彙特別演習 B	1		2
映像日本語特別演習 A	1	2	
映像日本語特別演習 B	1		2
日本の社会・文化 A	1	2	
日本の社会・文化 B	1		2
日本の思想・哲学 A	1	2	
日本の思想・哲学 B	1		2
日本語・日本文化特別研究 I A	4		4
日本語・日本文化特別研究 I B	4		4
日本語・日本文化特別研究 I C	4		4
日本語・日本文化特別研究 II A	4	4	
日本語・日本文化特別研究 II B	4	4	
日本語・日本文化特別研究 II C	4	4	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単 位 数	学 期 別 週 授 業 時 数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	



## 2. 授業内容

(東広島キャンパス)

### ・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC
担当教官	石原 淳也・深見 兼孝・多和田 眞一郎
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

### ・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	田村 泰男・中川 正弘・下村 真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・ レベル 3

授業科目	総合日本語中級 I A・I B
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	扱う内容は以下の通り。 ～くて／で～、～てから、ぜんぜん～、対比の「は」、 ～へ～に行く、～ましょう、～を出す、ぜんぶで～、 ～といっしょに～、連体修飾、～ます、一番＋形容詞、 決して～ない、～そう、～なければなりません、～だけでも～、 ～たり～たりします、～しか～ない、～を例として、 ～にとって、～て／でから、～の前に、～つもりです、 ～をはじめ、～とか～とか、～ば～ほど、～とおりに ～で～をする、～である、～が／は～に～をくれる、 ～てくれる、～そうです、～てもらおう、～く／～になる、 ～ながら～、～ので、～のは～、～には、もう～、～のよう、 ～たばかり～、～時には～、～のです、～てあげます、 ～て／で～、～にとって～、なかなか～ません、 ～うか(な)と思います、～ことがあります／～こともあります
テキスト	「日本語中級読解入門」(アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教官	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	各課ひとつのトピックについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。 本授業では次のトピックを扱う：ファーストフード、地震、睡眠、日本人の発明、リサイクルとフリーマーケット、あいづち、言葉の使い方、音楽、数字、くしゃみ、第一印象、
テキスト	毎回プリントを配布する。
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教官	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、 震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・ レベル 4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」(アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教官	山中 康子
目 標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内 容	(前半) 短文聴解 日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 (後半) 長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならぬ、～まま、～ようとしぬい、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがぬい
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教官	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

・レベル 5

授業科目	日本語聴解特別演習 A
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習 B
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習 A
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習 B
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習 A
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習 B
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。



授業科目	日本語古文特別演習 A
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習 B
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習 A
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 B
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字    5. 疊語    6. 類義語・類意表現 7. 若者語   8. 外来語   9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習 A
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習 B
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・ 日本事情

授業科目	日本の社会・文化A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー 7. 試験 8. 9. 生命倫理 10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の思想・哲学A
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の思想・哲学B
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級 I A
担当教官	山中 康子
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語初級 I B
担当教官	渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・ レベル 2

授業科目	総合日本語初級Ⅱ A
担当教官	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	<p>第1週－第5週            依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1)</p> <p>第6週－第10週            時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2)</p> <p>第11週－第15週            授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)</p>
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験



日本語教育部門：留学生関係科目  
(2008年4月～2009年3月)

田村 泰男

1. 授業科目一覧  
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期 交換留学生のため の授業である 。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

<b>Advanced Japanese A (Listening)</b>	2	2		
<b>Advanced Japanese B (Listening)</b>	2		2	
<b>Advanced Japanese A (Analysis)</b>	2	2		
<b>Advanced Japanese B (Analysis)</b>	2		2	
<b>Advanced Japanese A (Expression)</b>	2	2		
<b>Advanced Japanese B (Expression)</b>	2		2	
<b>Advanced Japanese A (Classical)</b>	2	2		
<b>Advanced Japanese B (Classical)</b>	2		2	
<b>Advanced Japanese A (Lexical)</b>	2	2		
<b>Advanced Japanese B (Lexical)</b>	2		2	
<b>Advanced Japanese A (Cinema)</b>	2	2		
<b>Advanced Japanese B (Cinema)</b>	2		2	
<b>Japanese Society and Culture A</b>	2	2		
<b>Japanese Society and Culture B</b>	2		2	
<b>Japanese Thought and Philosophy A</b>	2	2		
<b>Japanese Thought and Philosophy B</b>	2		2	

## 2. 授業内容

(東広島キャンパス)

### ・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A ・ I B ・ I C
担当教官	堀田 泰司・山中 康子・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

### ・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A ・ II B ・ II C
担当教官	恒松 直美・松崎 寛
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級 II 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル 3

授業科目	Intermediate Japanese I A ・ I B
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教官	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、 震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	<b>Intermediate Japanese I D ・ I E</b>
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	<b>Intermediate Japanese I F</b>
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	各課ひとつのトピックについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。 本授業では次のトピックを扱う：ファーストフード、地震、睡眠、日本人の発明、リサイクルとフリーマーケット、あいづち、言葉の使い方、音楽、数字、くしゃみ、第一印象、
テキスト	毎回プリントを配布する。
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・ レベル 4

授業科目	Intermediate Japanese II A ・ II B
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならぬ、～まま、～ようとしぬ、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがぬ
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」 (研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取り plus40 上」 (凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D ・ II E
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」 (アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前にまず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」 (凡人社)
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・ レベル 5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題



授業科目	<b>Advanced Japanese A (Analysis)</b>
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	<b>Advanced Japanese B (Analysis)</b>
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	<b>Advanced Japanese A (Expression)</b>
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	<b>Advanced Japanese B (Expression)</b>
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	<b>Advanced Japanese A (Classical)</b>
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	<b>Advanced Japanese B (Classical)</b>
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	<b>Advanced Japanese A (Lexical)</b>
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	<b>Advanced Japanese B (Lexical)</b>
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字      5. 畳語      6. 類義語・類意表現 7. 若者語    8. 外来語    9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	<b>Japanese Society and Culture A</b>
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー 7. 試験 8. 9. 生命倫理 10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	<b>Japanese Society and Culture B</b>
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題－不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	<b>Japanese Thought and Philosophy A</b>
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	<b>Japanese Thought and Philosophy B</b>
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

第23期 (2007---2008)  
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本留学生センターで受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、留学生センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されている。また、本プログラムは(1)全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2)学内外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして(3)指導教官のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教官と留学生センターにレポートを提出する。留学生センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第23期の研修留学生の出身国、男女比の構成は次の通りであった(括弧内は、うち部局間協定に基づく教育学部受け入れ人数)。

男子2(1) 女子3

出身国

香港1、ウズベキスタン1、ブルガリア1、ベラルーシ1、ニュージーランド1(1)



## <特別講義等>

19 年度（第 23 期）日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

### 2007 年度後期（第 23 期前半） 日本語・日本文化研修プログラム（特別研究 I）

10 月

9（火）	開講式	石原
	オリエンテーション	中川
12（金）	特別講義「日本語日本文化と IT」	中川
19（金）	広島見学 1（広島城・平和公園）	石原
26（金）	特別講義「音声学」	石原

11 月

2（金）	広島見学 2（現代美術館ほか）	中川
9（金）	特別講義「現代日本語の語彙」	田村
11（日）	留学生ミカン狩り	
16（金）	特別講義「日本人にとっての平和」	松尾（浮田）
23（金）	休み（勤労感謝の日）	
30（金）	宮島見学	石原

12 月

7（金）	特別講義「日本語と文体」	中川
14（金）	西条酒造会社見学	田村
21（金）	特別講義「日本の考古学」	古瀬（浮田）
22（金）	冬休み	

1 月

19・20（土・日）	江田島国際交流キャンプ	中矢
25（金）	福山見学	田村

2 月

2（金）	特別講義「俳句入門」	浮田
------	------------	----

3 月

28・29（金・土）	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川
------------	---------------	----

2008 年度前期（第 23 期後半） 日本語・日本文化研修プログラム（特別研究 II）

4 月

- |       |             |    |
|-------|-------------|----|
| 13（金） | オリエンテーション 2 | 中川 |
| 25（金） | 研修レポート構想発表  | 石原 |

5 月

- |       |                |            |
|-------|----------------|------------|
| 2（金）  | 特別講義「比較文化論の視点」 | 浮田         |
| 9（金）  | 特別講義「平和国家日本」   | 中園（浮田）     |
| 16（金） | 特別講義「日本の農業」    | マハラジャン（浮田） |
| 23（金） | マツダ見学          | 石原         |
| 30（金） | 特別講義「日本の経済」    | 小松（浮田）     |

6 月

- |       |                  |     |
|-------|------------------|-----|
| 6（金）  | 特別講義「沖縄のことば」     | 多和田 |
| 13（金） | 呉市・下蒲刈島見学        | 中川  |
| 20（金） | 特別講義「日本社会とジェンダー」 | 恒松  |
| 27（金） | サタケ見学            | 中川  |

7 月

- |       |              |        |
|-------|--------------|--------|
| 4（金）  | 特別講義「日本の教育」  | 田畑（浮田） |
| 5（土）  | ホームステイ協会交流会  | 中川     |
| 11（金） | 研修レポート中間発表   | 石原     |
| 18（金） | 特別講義「日本の考古学」 | 古瀬（浮田） |

8 月

- |          |           |    |
|----------|-----------|----|
| 1・2（月・火） | 松江・出雲見学旅行 | 石原 |
|----------|-----------|----|

9 月

- |      |               |    |
|------|---------------|----|
| 8（月） | レポート提出締め切り    | 石原 |
| 9（火） | 修了式、研修レポート発表会 | 石原 |

第9期 平成20年度（2008年度）  
広島大学日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度2名、17年度5名、18年度4名、19年度5名、そして本年20年度は5名の受け入れとなった。

留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループ（国際交流委員会の下に設置され、同年8月「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会となる。）の発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた（平成12年度、13年度の経緯については多和田教授による「広島大学日韓理工系学部留学生事業発足前後」『広島大学留学生教育第6号』を参照。）が、法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されることとなり、本事業に対する留学生センターの関与はより大きくなってきている。

本事業において留学生センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言（センターの部会委員は予備教育期間中指導教員となる）

4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
  5. 見学引率
  6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
  7. その他謝金講師のサポート
  8. 予備教育講師謝金等経費の管理
  9. 学生チューターの指導
- 等の業務を行っている。

#### 予備教育について

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を開講していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」のレベル 3 とレベル 4 を週当たり計 6 コマ（12 時間）履修させることとなった。また、この変更に伴い、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、17 年度より、本予備教育生用に日本語会話、日本語作文を各 1 コマ開設することとした。

本事業の予算は、年々減らされているが、本年度は昨年度の 2 / 3 まで削減された。これに伴い、本学予備教育では従来実施してきた「英語」を削り、さらに毎年ほぼ 15 週間おこなってきた予備教育を 10 週間に短縮した。このような予備教育実施時間数の減少に加え、本年度の学生は例年にも増して遅刻、欠席が目立った。彼らが学部の授業、日本での生活に適応できるかどうか、十分に目を配る必要があるように思われる。

08 年度時間割

	月	火	水	木	金
1 8:45-10:15		化学 1 山田 K209			
2 10:30-12:00	化学 2 赤瀬 K209	日本事情 中矢 K214	日本事情 橋本 K209	日本語 坂田 K116	生物 福島 K209
3 12:50-14:20	日本語 石原 K213	数学 2 千々和 K209	日本語 山中 K308	日本語 田村 K109	日本語作文 坂田 K209
4 14:35-16:05	日本語 深見 K214	日本語 田村 K215	物理 2 西村 K113	数学 1 森下 K209	日本語会話 坂田 K209
5 16:20-17:50	物理 1 姜 K209				

08 年度日韓共同理工系学部留学生

主な行事

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W0	9/28-10/4	1 渡日、2 諸手続		
W1	10/5-10/11	6 開講式、日本語授業開始		
W2	10/12-10/18	13 体育の日	17 広島城、平和公園見学	
W3	10/19-10/25	20 日韓授業開始		1
W4	10/26-11/1			2
W5	11/2-11/8	3 文化の日 4 健康診断 1 コマ	7 ホストファミリー対面式	3 月なし 火 1 コマ休講 金 4 コマ休講
W6	11/9-11/15			4
W7	11/16-11/22			5
W8	11/23-11/29	24 振替休日	28 宮島見学	6 月金なし
W9	11/30-12/6			7
W10	12/7-12/13			8
W11	12/14-12/20	補講期間 22 まで	19 マツダ見学	補講
W12	12/21-12/27	23 天皇誕生日		22 補講
		冬休み(12/23-1/6)		
W13	1/4-1/10	7 日本語授業開始		
W14	1/11-1/17	12 成人の日、日韓授業開始		9 月なし
W15	1/18-1/24			10
W16	1/25-1/31	26 旧正月 補講期間		補講
W17	2/1-2/7	補講期間		補講
W18	2/8-2/14	修了式 11 建国記念日		
		春休み(2/11- )		

## 平成 20 年度 指導部門活動報告

中矢礼美（留学生センター・指導部門・准教授）

### 1. 年間計画に基づく全体的な活動報告と来年度の改善点について

指導部門では、平成 20 年度の活動計画をもとに、以下のような活動を実施した。

#### <指導・相談>

- 留学生の就学・生活に関する相談を行った。相談延べ件数は、以下のとおりである。  
修学上の悩み（98 件）、進路の悩み（78 件）、経済上の悩み（87 件）、対人関係の悩み（24 件）、健康の悩み（8 件）、その他（58 件）、合計（354 件）。

修学上の悩みで多いのは、指導教員の進める研究と自分の研究関心とのズレ、修士論文や博士論文が進まないことに対する不安、具体的な調査計画や質問紙調査に対するコメント・修正の要請、指導教員や所属先の変更などである。

進路の悩みで多いのは、博士課程に進学するか、帰国するか、就職するかなどの選択についての相談である。経済上の悩みは、奨学金や授業料免除を受けていない、アルバイトが見つからない、調査研究のための費用が十分でないなどの問題である。

対人関係では、研究室内での人間関係の不和、いじめ、家庭内暴力などである。

健康の悩みは、持病や薬や治療への不信感など。その他は、警察、事故示談、病院付き添い、推薦書作成などのケアである。

- 学内外の相談窓口について留学生に広く周知し、支援活動を行う際には適宜連携を図った。
- 日本人学生に対する国際交流関係の相談・指導を行った。特に、留学を計画している学生や異文化間コミュニケーション能力を高めたい学生、あるいは留学生との間にトラブルがある学生への対応を行った。

#### <オリエンテーション>

- 前期、後期に、日本語・英語・中国語による全学オリエンテーションを行った。また、留学生支援のための日本人学生チューターオリエンテーション、図書館オリエンテーション（図書館の支援）、国際交流会館オリエンテーション（留学生センター所属学生対象）、国際交流会館防災訓練（国際交流会館居住者対象）を行った（日程表は次項に記載）。
- 国際交流ボランティアの充実を図るためにオリエンテーションを 3 回開催した。ボランティアの活用を量的・質的に高めるために、活動報告を求め、改善に努めた。

#### <国際交流活動>

- 公開シンポジウム、国際交流会、毎週の国際交流昼食会などを開催して、学内外の一

尾を巻き込んだ国際交流活動を展開した（プログラムは下記のとおり）。

- 国際交流昼食会に参加しての留学生からの感想を HP に掲載しているが（下記のとおり）、数は多くないものの、着実に効果があることが分かる。また、課題も挙げられているが、この課題については、今後日本人学生対象の異文化関係講義の増設や活動を通して解消するしかないであろう。

「国際交流昼食会は先生から聞いてほぼ毎回出席しています。初めてそれを知った時にわくわくして、早く月曜日がこないのかなと切にのぞんでいた。広大に入ってから班活やオリキャンなどをして、学部の友達はいっぱいできたけれど。この国際交流昼食会を通して、他の学部の人とも仲良くなりたいというのが狙いだった。実際にいろいろな学部のかたがいらっしゃってたくさんいい話聞けたし、単純に面白かったこともあり、広島大学の知り合いの人数もぐっと増えた。しかし、交流会のメンバーは固定しておらずメンバーの更新が結構激しくて、一度楽しく話できた人がなかなか二度と現れない人も少なくない。それに、新しいメンバーとの初対面で質問されるんだが、同じ質問だったりして、あまり面白みが感じなくなってしまふ。しかも、知り合いになった人とどっかではったり会った時に挨拶することもなくすれ違ってしまふことも少なくない。以上の経験で余計に建前と本音を大切にしている日本人と付き合いにくいと考えてしまふ。日本人はあんまりにも、外国人との付き合いを避けているとも考えられなくもないのではないか。英語圏の留学生は別として。」

- 留学生を地域の国際交流活動に紹介した。小中学校における国際理解教育授業への参加は、東広島市教育委員会と協力して実施した（平成 19 年度実績は、148 件）。また、東広島市外や高等学校、公民館などでの国際交流活動への参加についても紹介・調整を行った。

#### <調査研究>

- 留学生が日本の文化・社会に適応できるように、留学生が直面する問題について、制度・法律の側面からの研究を行い、支援活動に役立てた。
- 留学生支援調査を前期 1 回行い、その成果を教職員に公表することで、現状の把握と情報の共有を図った。
- 学内の標識 WG に参加し、留学生の学内での快適な状況を把握し、それを伝達するように努めた（標識のバイリンガル化、ルール標識の改善など）。

#### <情報提供の改善>

- 奨学金情報については英訳を行い、必要とする教職員・学生に配布した。
- 授業料免除の書類を留学生により分かりやすくするために、学生課と相談し、役立ててもらった。
- 留学生 HP により多くの情報を掲載し、留学生が情報収集しやすいように改善した。

平成 20 年度は、予算の削減と二人体制のところを一人で行わざるを得ない状況であったため、様々な活動に支障が生じた。相談業務では、時間に余裕がなく十分に答えられな



い状況もあった。オリエンテーションについても、バスオリエンテーションは実施できず、国際交流会館の生活オリエンテーションも簡略化（効率化）されて、書面とビデオのみとなり、留学生支援調査も2回実施のところが1回となった。また、改組問題に時間が大幅にとられ、所属や学生指導体制の変化の議論の中で、専門教育教員との協議会も開催することができなかった。

以上の活動状況を踏まえ、平成21年度以降は、以下事項について改善を計画している。ただし、一人で活動を実施しなければならない状況の改善がまだ見込まれていないため、全体的に二人体制時のように充実した事業展開を行うことは非常に難しい。

- 留学生指導に関係する教職員による集会（留学生相談協議会）を再開し、今後の留学生支援体制について議論を行い、意識と情報の共有化と向上を目指す。
- 関連部署と連携し、留学生むけのHPを抜本的に改善し、それを元にキャンパス・ライフガイドブックの改訂を行う。
- 留学生の就職支援を推進すべく、学内外の情報収集を行い、留学生に情報を広める。具体的には、卒業後日本で就職することに成功し、活躍している元広島大学留学生を招き、講演会を開くとともに、留学生のキャリア教育を行う。
- 国際交流会を開催し、留学生、日本人学生、教職員の間での情報交換を行い、学生らによる自主的な活動ができるよう、基盤作りを行う。

## 2. 主な行事報告・活動報告

### 2.1 オリエンテーションおよび行事

<前期>

●全学新入留学生オリエンテーション 2回

日時：2008年4月10日(木) 16:20～17:50

日時：2008年4月11日(金) 16:20～17:50

場所：教育学部講義棟 K201号教室 言語：日本語、英語、中国語

●図書館施設一般に関するオリエンテーション

日時：2008年4月16日(木) 14:35～16:05

場所：中央図書館 大グループ室 使用言語：英語及び日本語、中国語

●国際交流会館 消防訓練 日時：2008年4月12日(土) 10:00～11:30

場所：国際交流会館

使用言語：英語、日本語

●ホームページおよび文献検索(電子ジャーナル、データベースなど)に関するオリエンテーション

日時： 2008年4月30日(木) 14:35～16:05

場所： 中央図書館 大グループ室 使用言語： 英語、日本語、中国語

<後期>

●全学新入留学生オリエンテーション

日時： 2008年10月10日(金) 16:20～17:20

場所：教育学部講義棟 K201号教室 言語：日本語、英語、中国語

● 図書館施設一般に関するオリエンテーション

日時： 2008年10月16日(木) 14:35～16:05

場所： 中央図書館 大グループ室 使用言語： 英語及び日本語、中国語

●国際交流会館 消防訓練 日時：2008年10月18日(土) 10:00～11:30

場所：国際交流会館

使用言語： 英語、日本語

● ホームページおよび文献検索(電子ジャーナル、データベースなど)に関するオリエンテーション

日時： 2008年10月30日(木) 14:35～16:05

場所： 中央図書館 大グループ室

使用言語： 英語、日本語、中国語

●留学生懇親会 日時：2008年12月1日(月)

場所：グランヴィアホテル(広島市)

### 3. 2008年前期の広島大学留学生支援調査「満足度指標」の結果報告

質問紙票は、広島大学に在籍する全留学生に配布し、そのうち288名の方から回答をいただきました(女性139名<48.3%>、男性147名<51%>、無効2名<0.7%>)。回答者の出身国は35カ国で、中国人留学生からは50%(144名)と最も多くの回答をいただいた。学部学生は、21(7.3%)、大学院生は204(70.8%)、研究生は58(20.1%)、その他5(1.7%)という内訳だった。以下の表は、2008年前期調査における質問項目毎の「満足度」の平均値と偏差値を示している。

2008年前期「留学生支援調査」における質問項目毎の「満足度」の平均値と偏差値

満足度指標		有効回答数	平均値	偏差値
1	研究活動に対する指導教員による支援	283	4.46	0.83
2	個人研究領域に関する学生自身の知識	282	3.61	1.02
3	カリキュラムに対する満足感	281	3.73	0.88
4	講義の内容に関する理解度	279	3.53	0.97

5	大学図書館へのアクセスの	283	4.12	0.83
6	宿舎および生活環境に対する満足度	285	3.99	0.94
7	留学生センターによる情報	282	3.70	0.90
全体的な満足指標				
9	講義と研究に対する満足度	285	4.07	0.81
10	日常生活に対する満足度	285	3.87	0.87

\*平均値は、「強く反対」から「強く賛成」までの5段階評価による得点の平均値。

留学生センターでは、この調査結果に基づき、オリエンテーションや個人相談を通して、より適した支援システムの拡充に努め、また調査の結果は、各部局、関係者等に報告し、留学生をとりまく教育研究および生活環境の向上をお願いした。

調査の概要と個別相談を取りまとめた Q&A は、留学生センターHP に掲載した。  
(<http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp/index.html>)

#### <留学生支援調査：個別対応翻訳>

留学生支援調査では、自由記述に相談や質問を書くように依頼した。何か相談事項が書かれており、対応先が書かれている場合には、個別対応を行った (24 件)。また、その中でも代表的な質問事項については、Q&A 方式でまとめ、HP に掲載した (下記のとおり)。

Question A: Some university practice that students want Japanese as credit, they can attend the Japanese class as a credit. For Hiroshima University, we can't attend Japanese class because of overlapping with other classes.

回答 A：日本語授業のスケジュールは、みなさんへのアンケートの結果、適正な数だと多くの人が回答していたので、これ以上多くの講義を提供するのは難しいと思います。すみません。また、単位互換については、学部ではできるのですが、大学院のための授業ではないので、単位が出せないことになっています。

Response A: Concerning the issue of schedule for Japanese language classes, the survey has revealed that many students think the number of classes is appropriate so, most likely, we will not increase it. Sorry. And speaking about credit transfer, it is possible for undergraduate students but, as graduate programs do not include the classes, not for graduate students.

Question B. Because I started my graduate courses as soon as I came to Hiroshima University, so I did not have enough time to take intensive courses on Japanese language. So, language is a problem for me when I go to offices/shops/traveling or any other places outside university.

回答 B：集中的に日本語を勉強した留学生でも、毎日日本語を意識的に使わないと、どんどん忘れていくようです。集中的に日本語を学ぶ機会がなかったようですが、これから習得したいのであれば、留学生センターの日本語授業に参加したり、毎日日本のテレビを見たり、お店

や旅行の時に話す言葉を覚えて使うように日々努力するしかありません。言葉の習得には時間とやる気が必要です。日本人とどうしても意思疎通がしたいという強い気持ちを持って、わずかな時間も有効に使うように、がんばってみてください。

Response B: It appears that even international students who had studied Japanese language intensively tend to gradually forget it if they don't make an effort to use it every day. As it can be understood, you have no experience of intensive studying of Japanese language, but if you plan to learn it you have no other choice but to make a constant effort either attending Japanese language classes organized by the International Student Center, or watching Japanese TV-programs, or remembering and using Japanese language in shops and during traveling. To master a language one needs a time and a will. If you have a strong desire to become able to communicate with Japanese people try hard efficiently using what little time you may have.

Question C: International student center has to be more humanize regarding many issues that International students facing

回答 C : 留学生センターは、留学生が直面する問題をできるだけ把握し、学長、副学長、各研究科長に改善をお願いしています。自分たちで改善できること（日本語学習、個別相談、国際交流機会の企画・提供、情報提供）などにも日々努めています。ただ、いくら努力しても、9名の教員で、事務職員も非常勤が一人、予算も半減される状況において、すべての留学生にとって満足のいく支援ができていません。大学の対応と留学生センターの機能を充実させるよう、先週も学長をお願いにいきました。学長もできるだけ改善するとのお話でした。今年度は、新しい留学生のための宿舎の整備、留学生の支援体制整備のための改組に取り組んでいます。来年度は、就職支援に取り組みたいと思っています。留学生センターの HP やもみじで掲載する情報を常にチェックしてください。

Response C: The International Student Center makes its utmost effort to grasp the problems international students are facing with and requests University president, Vice-president and every Graduate School Head to make necessary improvements. The ISC staff also does whatever possible for them to do independently like organizing Japanese language courses, offering individual consultations, planning and implementing international exchange meetings and providing with necessary information. But however hard they try, given the fact that there are only 9 of them with 1 part-time office clerk and the budget had been halved, there is no way they can do enough to satisfy needs of international students. The last week, I went to meet the University President to discuss the ways of improving our University's dealing with various issues as well as how to improve the work of the ISC. The President promised he would render as much support as possible. This year, a new dormitory for international students will be built and an effort is being made to establish a new system of international student support. The next year, I'm planning to engage into creating a system of employment support for international students. Please, make sure you check for the latest information on the web-site of the ISC and Momiji.

Question D: More activities (i.e. Lectures, discussions, classes) in the university should be available in English in order to get foreign (and Japanese) students in touch, as well as to offer international students more whilst at Hirodai

回答 D : 私も、あなたの意見に同感です。もっと留学生が英語で日本人と関わる授業や機会が必要だと思っています。留学生センターでは、国際交流昼食会といって、お弁当をもちよって、気軽に日本人と留学生が友達になる場を提供しています。夏休み期間中はお休みですが、10月から再開します。3週目の月曜日くらいから始めようと思っています。場所は、留学生センタ

ーK306、時間は 12 時から 13 時までです。また掲示板でお知らせしますね。また、授業についても先週学長にお願いしました。これから留学生と日本人がより積極的に交流できる講義ができると思います。

Response D: I agree with you that there should be more classes and opportunities in general where international and Japanese students are able to communicate with each other in English language. On its part, the International Student Center organizes 'International luncheons' – an opportunities for Japanese and international students to eat lunch together and become friends in a carefree atmosphere. International luncheons will not be held during summer vacation but will be resumed somewhere from the third week of October in the classroom K306 (International Student Center). Additional information will be posted on the bulletin board. And as for classes, I went to speak with the University President the last week and as a result of those negotiations I think that in the future we will introduce classes involving more active communication among International and Japanese students.

質問 E : 授業で日本人の学生と一緒に受けるけど、授業終わったらばらばらになって、日本人の学生と友達になれない。

Question E: Even if you attend classes with Japanese students, when classes are over everybody just break up so you can't make friends with them.

回答 E : 日本人との友人関係ですが、日本人学生も同じです。同じ目的を共有できる仲間を作っていく必要があります。サークルに入るとか、アルバイト先で友達を作るなどしてみましょう。大学院生は、勉強会を組織している人も多いです。

Answer E: When it comes to the friendship with Japanese, the same logic applies to Japanese students themselves. It is necessary to make friends with people who share your goals. Want friends? – join a circle or try to find them at your part-time job. Also, some graduate students organize learning meetings.

質問 F : 奨学金がもらっても、アルバイトをしないといけない。なぜなら、授業を免除してくれないからです。結局、勉強する時間が少なくなる。大学は何を支援しているのでしょうか？

Question F: Although I receive a scholarship, I have to work. This is because I still have to pay the tuition fee. Consequently, I end up with having less time for my studying. So, I just wonder if the University has any intention to support its students?

回答 F : 大学の留学生支援政策は、明確に決まっています。優秀な留学生に修士号・博士号を取得させるということです。したがって、授業料免除も奨学金の推薦も修士号・博士号取得の最終年度を一番に優先し、その次に学業成績と研究業績に基づいて優先されます。経済的な理由は、その次になります。ただし、留学生にも最低限必要と思われる宿舍の整備はしていこうと、現在新しい留学生のための宿舍保障を進めています。大学は、国の補助と学生の授業料によって運営される機構ですので、すべての学生に経済的な支援を行えるわけではないことを理解してください。大学は、教育と研究の場を提供する機構です。指導教官の指導や授業についての批判については、どんどん意見を述べてもらい、教職員全員でその改善に努めて行くべきですが、学生に対する経済支援という点では、期待にそえるものではないと思います。私も長い長い間、経済的に非常に困難な状況の中で勉学に励んできました。大学からの支援はもちろん受けたこともなく、アルバイトで稼いだお金で授業料も払い、生活してきました。大家さんに相談して 8 畳一間の部屋で友達と生活し、昼間は大学、夕方は塾や飲食店でバイトをしていました。でも、普通の人より何倍もいろんな経験ができたし、いろんな人と出会えて、よかったです。時間を有効に使う方法も身につけ、できるだけ効率よく本を読み、まとめ、論文を組み立てる方法を模索できたと思います。大学からの補助はないものと考え、自己努力と学外か

らの資金を得られるよう、あらゆる情報を活用して、よりより学生生活を送られることを願っています。留学生センターの HP (<http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp/index.html>) や広島大学の HP(学生生活のページ <http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kyoiku/index.html>) には、役立つ情報を掲載していますし、インターネットで「奨学金」「研究奨励」などで検索するとよいかと思えます。大学から推薦を受ける必要がなく、個人で申請できるものもあります。日本学生支援機構 <http://www.jasso.go.jp/> の情報を活用してみましょう。これまでもがんばってこられたのですから、これからもそれを続けて、がんばってください！

Answer F: The University has a clearly determined policy of international student support: that is to assist talented international students in earning Master or Doctor degrees. Hence, the utmost preference in getting tuition fee exemption or recommendation for scholarship is given to graduate students on their last years of enrollment, then to students with distinguished academic and research records, and only then students' financial situation is taken into account. However, in order to provide international students with accommodation – an element considered to be a bare-bone necessity, – a new dormitory for international students is being constructed. Universities are institutions financed partly from state budget and partly from student-paid tuition fees. So please understand that not all students can get a financial support. Universities are institutions for education and research. Educational personnel must be committed to paying attention to students' criticism regarding their work as well as to making effort to improve themselves but solving students' economical issues is rather impossible. I also have a long experience of enduring economical hardships while devoting myself to studies. Needless to say, I was not receiving any support from the University and have paid for my education with what money I managed to earn doing part-time jobs. I had to ask a land-lord to allow me and my friend to share a single 12 m<sup>2</sup> room; I studied in the University during daytime and worked in cram-schools and restaurants at night. But I'm glad all that gave me an opportunity to accumulate a great deal of experience and meet various people. It has also provided me with skills to use time effectively and learn a way of efficient reading, summarizing and writing theses. You are well advised to think it is rather unlikely to receive any assistance from the University and try to find ways to earn with your own effort – I hope you will become able to lead a better student life. There are various sources of information that can help you, like the web-sites of the International Student Center (<http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp/index.html>) or of the Hiroshima University ("Education and Student life" page at <http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kyoiku/index.html>). You can also search for "scholarships" or "research support" on the Internet. There are scholarships that don't require University's recommendation and can be applied for individually. The web-site of the Japan Student Services Organization (<http://www.jasso.go.jp>) is also a good source of information. You've been doing it up to now, so keep working hard!

#### 4. 各種行事プログラム

平成 20 年度は、特別行事として公開シンポジウム 「グローバルをめざす広島大学の地域・国際交流」(図書館にて同時に、「グローバル化をめざした広島大学の地域・国際交流」展示会開催)、国際交流会、県教育委員会事業支援、懇親会などを開催した。プログラムは以下のとおり。

##### 3.1 公開シンポジウム 「グローバルをめざす広島大学の地域・国際交流」

主 催：広島大学留学生センター

共 催：広島大学図書館

日 時：7月11日（金）14：00～16：10

場 所：中央図書館ライブラリーホール

収容人員：100名

趣 旨：

グローバルな人材育成および多文化共生社会の創造のため、広島大学における「地域・国際交流」の現状と今後の展望について、日本人学生・留学生・教職員と地域の諸関係者との議論を深め、新たなネットワーク・システムの構築と実行に寄与することを目指す。

プログラム：

1. 主催者等挨拶
2. 広島大学の地域・国際交流支援活動について（15分）  
留学生センター 中矢礼美 准教授
3. 図書館における地域・国際交流プラザの活動について（10分）  
広島大学図書館地域交流主担当 西本 篤夫 主査
4. 広島大学留学生による学校教育支援活動について（15分）  
東広島市教育委員会学校教育部指導課 中野詠美子 指導主事
5. 学友会による地域交流・地域活動（15分）  
中国人留学生学友会 張 紅岩 会長
6. インドネシア留学生会と地域交流（15分）  
在広島インドネシア留学生会 DANAR PRASEPTIANGGA 会長
7. 東広島国際交流フットサルリーグの活動報告（15分）  
齊藤 崇（総合科学研究科）
8. 活力ある広島の構築に向けた広島大学と地域国際交流活動への期待  
橋本康男（15分）
9. 全体討議 モデレーター 留学生センター 中矢礼美 准教授（23分）
10. 閉会の言葉 秋保 聡 国際交流グループリーダー（1分）

#### 【シンポジウム関連行事】

「グローバル化をめざした広島大学の地域・国際交流」展示会

場 所：中央図書館地域・国際交流プラザにて、展示会

期 間：7月11(金)～7月27日(日)17日間

時 間：9時15分～16時15分

目 的：広島在学留学生の各国紹介、留学生センターの事業紹介など

## 展示内容：

○パネル展示、実物展示、写真展示、ポスター類展示、他

＊ブース1：留学生センター活動

(日本語教育・HUSA・指導部門関係活動紹介)

＊ブース2：東アジア(各国紹介・地域交流紹介)

＊ブース3：東南アジア(各国紹介・地域交流紹介)

＊ブース4：その他の留学生出身国(各国紹介・地域交流紹介)

○DVD・ビデオ上映(諸外国の状況ビデオ・地域交流ビデオ)

その他：常設展示のみ(解説者等不在)

参加団体： ・東広島市教育委員会学校教育部指導課

・中国人留学生会(学友会)

・在広島インドネシア留学生会

・東広島国際交流フットサルリーグ

## 3.2 平成20年度グローバルに活躍できる「広島っ子」育成事業

### 国際交流体験プロジェクト実施要項

#### 1 趣旨

高校生と県内の高等学校に学ぶ留学生に、文化の違いを乗り越えて協同で国際交流体験プログラムを企画・実施させることにより、国際社会で活躍する意欲を高めさせるとともに、国際社会に生きる日本人・広島人としての自覚を深めさせる。

#### 2 対象

国際的な舞台での活躍を目指す県内の高校生50人及び留学生30人 計80人

#### 3 事業概要

##### (1) インターナショナル・セミナー

・実施期間：平成20年7月～平成20年12月(4泊5日の合宿を含む年間9日間)

・内容：①国際社会で活躍する講師等による講演，ワークショップ

②県内の伝統文化継承者等による講演，ワークショップ

③自然環境保護に関わる体験活動

④「インターナショナル・ユース・デイ」の企画

##### (2) インターナショナル・ユース・デイ

・実施日：平成20年12月14日(日)(1日)

・内容：「インターナショナル・セミナー」での活動成果についての意見発表，展示・ステージ発表

(3) 事業の実施に当たり、高校生及び留学生が企画会議を組織する。この会議の運営に当た



っては、外国語指導助手等が協力する。

#### 4 経費負担

県教育委員会は、事業の実施に要する講師謝金・旅費、会場費等について予算の範囲内で負担する。ただし、会場までの交通費、宿泊費等の費用については参加する学生の自己負担とする。

#### 5 申込方法等

参加希望者は、諸情報をメールにて平成20年6月7日（土）までに留学生センター中矢礼美（anakaya@hiroshima-u.ac.jp）あてに提出する。

#### 6 その他

○各プログラムの詳細は、決定次第、メール等を用いて申込者に通知する。

○使用言語は、原則英語である。

○公的交通機関を用いて会場まで移動すること。その際、留学生センター中矢礼美が引率する。集合時間・場所、移動方法についても決定次第、申込者に通知する。

<インターナショナル・セミナー：年間9日>（予定）

No.	日程	午前	午後	会場
1	7月19日 (土)	・セミナー開講式、オリエンテーション ・国際社会で活躍する講師による講演及び講師とのディスカッション	企画会議	広島県立総合体育館
2 3 6	8月6日 (水) 8月10日 (日)	・国際貢献・国際社会に関する講演 ・異文化理解に関するワークショップ ・伝統文化に関するワークショップ	企画会議	国立江田島青少年交流の家 費用：6500円（5日間の食事代、宿泊費）
7	10月11日 (土)	・自然環境保護に関わる体験活動	企画会議	広島県内（会場未定）
8	11月15日 (土)	・海外の高校生とのテレビ会議	企画会議	広島市内（会場未定）
9	12月13日 (土)	・企画会議	企画会議	広島市内（会場未定）

<インターナショナル・ユース・デイ：年間1日>（予定）

No.	日程	午前	午後	会場
-----	----	----	----	----

10	12月14日 (日)	・国際社会・国際貢献等に関するフォーラムの実施	自国の伝統文化・国際交流等に関するフェスティバルの実施	午前：YMCAホール 午後：シャレオ中央広場
----	---------------	-------------------------	-----------------------------	---------------------------

### 3.3 国際交流会 (プログラム)

今回の国際交流会では、3名の留学生と1名の日本人学生に「日本の社会と文化」について発表をしていただきます。日 ろから さんが感じている日本人意識の特 、日本社会の課題などについて、様々な意見を交換しましょう。留学生、日本人学生 方が日本の社会と文化についてより深く考えるきっかけになればと思います。そして、日本人学生と留学生の相互理解、人的交流のネットワークが広がることを願っています。

日時：2009年1月20日(火) 10:00～12:00

場所：学士会館レセプションホール

使用言語：日本語・英語

主催：留学生センター

プログラム

1. 恋とは何か “What is love?” (中国：趙 つん)
2. The Japanese “Peace” Constitution –SDF and its influence on article 9  
日本人の「平和」憲法—自衛隊と第九条への影響  
(ニュージーランド：Nadya Histova Berova)
3. 世界の中の日本、日本の中の世界 Japan in the world, the world in Japan  
(日本：齊藤稔夫)
4. The Immigration Issue and Uniqueness of the Japanese Situation  
移民問題と日本の特殊な状況  
(イギリス：Lee Apsey)

### 3.4 国際交流昼食会

ポスターを掲示して、毎週月曜日に教員室を使用して、1時間程度昼休憩に学内の国際交流の促進を図った。毎回留学生、日本人学生5名程度ずつの参加があり、交流の場も広がられていった。

## 国際交流昼食会 International Luncheon

昼休憩を使って、国際交流をしませんか？留学生と日本人学生がお互いのことを知る機会になれば良いと思います。昼食を持参してきてください。

Would you like to use your lunch time for an international get together? This may be a chance for international students and Japanese students to learn more about each other. Please join us with your lunch.

教育交流部門  
広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム活動報告

堀田泰司・恒松直美

（広島大学留学生センター 教育交流部門）

## 沿革

1993年に開催された日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange: 通称カルコン CULCON)において、日米間の学生交流の促進が謳われ、日米双方の関係者が尽力した結果、1996年までに8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学（以下 HUSA）プログラムは、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。本学の短期交換留学プログラムは、米国との学生交流だけでなく、世界中の協定大学との交流を促進し、派遣留学だけでなく、様々な文化・価値観を持つ留学生を受入れることにより、本学の在籍学生に異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際感覚を身に付けてもらうことを目指している。そのため、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を留学生のために開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。また、大学院生の受入れに関しても、各学部の研究室が受け入れを行っている。さらに、国際協力研究科では、様々な開発分野が短期交換留学生にも門戸を開いている。そして、派遣留学を促進するために、学生交流のためのコンソーシアムである INU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンラインビデオ講義を含む、本学学生の留学のための国際教養科目を開設している。また、2001年よりこうした交換留学事業がより効率的、且つ効果的におこなわれるよう UMAP (University Mobility in Aisa and Pacific) 事業が提唱する UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) を採用し、全協定大学に対する教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAP が新たに開発した USCO (UMAP Student Connection Online)事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。HUSA プログラムは、プログラムの開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会によって統括されている。部会は合計16名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されており、プログラムの全学的運営と全学的利益の還元を保証している。但し、実務的な管理運営にあたっては、留学生センターの教育交流部門の教員2名及び学術室の留学交流グループ職員がその主たる業務を担っている。

### I. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間：一学期または一学年
- ・ 募集人員：40名
- ・ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する

- ・ 応募資格：
  - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
  - (2) 原則として自国の大学の正規課程3年次の学部学生（協定校によっては、院生も含む）
  - (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
  - (4) 非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦と UMAP 学習計画書を参考にしながら、書類をもって選考する。
- ・ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ 授業料等の不徴収：交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ カリキュラム：授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えて授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、留学生センターが実施している日本語・日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2008-2009年度に開設された授業科目一覧表である。

#### 2008-2009 度（2008 年 10 月～2009 年 7 月）授業科目一覧

[2008 度秋学期]

##### 1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Japanese Economy	2 単位	経済学部
Multiculturalism Art Education	2 単位	教育学部
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部

The Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部
Introduction to Radiation in the Environment	2 単位	工学部
Introduction to Food Science	2 単位	生物生産学部

## 2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
異文化コミュニケーション論入門	2 単位	総合科学部
歴史風景解析学(B)	2 単位	文学部
英語ディベート演習	2 単位	総合科学部
中期英語演習	2 単位	文学部
音声学・音韻論	2 単位	総合科学部
口腔の科学: 食生活と全身の健康	2 単位	総合科学部
日本社会と生活様式B	2 単位	総合科学部
平和とは何か	2 単位	総合科学部
人体構造 3	0 単位	医学部

(「人体構造 3」は聴講のみ、霞キャンパスで実施)

## [2009 度春学期]

### 1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
HUSA Internship	2 単位	教育学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Peace and Human Rights	2 単位	教育学部
Development and International Education	2 単位	教育学部
Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Mathematical Structures	2 単位	教育学部
Introduction to Animal Production Science	2 単位	生物生産学部
Business Economics	2 単位	経済学部
Legal System and Japanese Society	2 単位	法学部

### 2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
日本の政治と対外関係	2 単位	法学部

現代国際法演習	2 単位	総合科学部
ヨーロッパ画像解析学 B	2 単位	文学部
心理言語学	2 単位	文学部
What is Religion?	2 単位	総合科学部
英文法	2 単位	文学部
言語学入門	2 単位	総合科学部
社会医学・国際協力論	2 単位	医学部
細胞生物学	2 単位	医学部
物理科学実験 B	3 単位	理学部
地球科学野外巡検A	1 単位	理学部
日本語・日本事情 A	2 単位	総合科学部
社会と言語	2 単位	総合科学部
水循環論	2 単位	総合科学部
INU 特別協力講義 B:「アメリカの文化と社会」	2 単位	総合科学部
CMOS 論理回路設計	2 単位	工学部

#### 日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語表現特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語古文特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター

日本語上級 B (リスニング)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (映画)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (古典)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (語彙)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (表現)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (分析)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会・文化A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会と文化 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の思想・哲学A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本思想と哲学 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の映像文化史 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(3) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障（広島大学）とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

## II. 2008-2009 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2008-2009 年度は、アメリカ、イギリス、インドネシア、オランダ、オーストラリア、韓国、シンガポール、タイ、中国、ドイツ、トルコ、フィリピン、フィンランド、マレーシア、ロシアの 38 大学と 2 コンソーシアムから 42 名の留学生を受け入れた（2007 年度 37 名）。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2008-2009 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 15 名、女子学生 27 名であった。

## III. 2008-2009 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

申請と選考：2008 年度募集要項は、2008 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に、本学の選考委員会によって HUSA 参加者が正式決定された。今年度も受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書も申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料として



利用した。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録を受け付け始めたが、2008 年度もオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備され、より効率的な形でオンライン登録ができた。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

**渡日前の情報の提供：**渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き (Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページによって HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。さらに、2003 年度 HUSA プログラムより開講しているインターンシップ・コースについての情報も掲載した。それらに加え、学生の個人的な質問等には、電子メールやファックスを活用し、直接個々のケースに対応した。

**チューターオリエンテーション：**日本人学生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、留学生が来日する直前に、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

**見学・体験学習：**2008 年度春学期には、4 月に花見会を開催し、日本人学生と交流の機会を持った。また、7 月には書道セミナーを開き、留学生が日本の書道を体験する機会を持った。2008 年度秋学期には、毎年のように 10 月に、西条酒祭り見学、呉市吉浦秋大祭見学、11 月に、文化交流のための学校訪問、地域学校との国際交流会など文化体験学習の機会を提供してきた。

**授業科目の開設状況：**短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度は、Special Course 及び Integrated Course (2008 年度春学期 26 科目、2008 年度秋学期 16 科目)、日本語教育 (2008 年度春学期 17 科目、2008 年度秋学期 20 科目) が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003 年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生そして研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

2003 年度より春学期にインターンシップ・コースを開設し、2003 年度は企業・公官庁

に 2 名、2004 年度及び 2005 年度には各 6 名、2006 年度には 3 名、2007 年度には 7 名、2008 年度には 11 名を派遣した。2005 年度より、インターンシップ派遣前に事前研修を行い、インターンシップに備えているが、研修を毎年より強化し、社会人のマナーを身に着ける訓練を行っている。また、本年度は、企業での体験について企業体験者を招聘しセミナーを開き、学生への指導内容を充実させた。インターンシップ開始前には、東広島商工会議所関係者、広島経済同友会広島中央支部国際問題委員会、及び受け入れ企業の関係者との会議及び懇親会に担当教員及びインターンの学生が出席し親交を深めた。地域との連携の中で大学の国際化を促進し、留学生のキャリア教育及び日本での就業体験をさらに充実したものにしていきたい。

#### 文化交流支援活動：

- 9 月に来日した際に行う HUSA プログラム・オリエンテーションは 2006 年度より 2 日間に亘って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や、HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう機会を提供した。
- 2 つのホームステイプログラムを例年のように実施した。口和町教育委員会と協力して、11 月に第 11 回目のホームステイプログラムを実現した。参加した留学生は各家庭訪問に加え、全体での交流や、消防訓練実地体験、祝詞、着物着付け、餅つきなど日本文化体験を楽しんだ。また、忠海高校とも協力し、第 7 回目のホームステイプログラムを行った。家庭でのホームステイに加え、高校での全体交流、各グループに分かれての、茶道、書道、調理、メディアのクラスなどを体験した。
- 本年度は、昨年 10 月に広島大学附属三原小学校と共同で開催したホームステイ・プログラムは 2 回目を迎えた。11 月には、広島大学にて広島大学附属三原小学校との国際交流会を開催した。
- 当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人チューターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

地域貢献：2003 年度より、東広島商工会議所から、国際理解のための留学生の母国についての講和を依頼されている。2003 年度はフランス・韓国、2004 年度はアメリカ・カナダ・ギリシャ、2005 年度にはドイツ、2006 年度にはタイからの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。また、HUSA 留学生が、地域の小学校・中学校・高校を訪れ、国際交流を行った。2008 年 9 月及び 2009 年 1 月には、国立江田島青年の家と広島大学留学生センターとの共催で、外国人

と日本人が交流を通して異文化コミュニケーション能力を身につけることを目的とした「国際交流ボランティアセミナー」が江田島青年の家で開催され、HUSA 学生も参加した。さらに、2008年11月には、留学生と留学生の家族、広島大学職員の参加するバス見学旅行「りんご狩りツアー」にHUSA 留学生も参加した。

**HUSA 広報活動：**HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップ、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、すべてが網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。

**HUSA プログラム評価：**プログラム改善の参考とするため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。

**IV HUSA サマースクール：**2008年6月から7月にかけて3週間に渡り、HUSA サマースクールを開講した。本プログラムの概要は以下の通りである。

**実施機関：**広島大学が主催し、日本語教育と文化体験学習プログラム、そして宿泊は、(財)ひろしま国際センターが担当した。また、広島大学でも、HUSA プログラムの科目や一般教養科目等の一部に参加し、日本人学生や留学生と授業で交流する機会を設けた。

**研修目的：**広島大学短期交換留学（HUSA）プログラムを通し交流している協定校の学生に対し、広島大学並びに広島の風土や文化について理解を深めてもらう。また、これまで学習してきた日本語を運用する機会を提供し、自己の日本語の問題点を認識してもらうとともに、談話展開、日本語運用に必要な背景の理解など、海外での学習では得られにくい項目の学習機会を提供することにより、より実践的な日本語運用能力の向上を目指す。

**到達目標：**(1) 広島大学のキャンパスに親しみ、講義、研修、交流を通して広島の風土や文化について学ぶ。(2) ある程度の長さの発話をし、自身の日本語能力、談話展開上の問題点について知る。(3) 日本語母語話者との交流、文化体験等を通して、適切な日本語運用の際に必要な、文化的な背景等についても学ぶ。

**評価方法：** 評価基準：S(秀)100-90%、A(優)89-80%、B(良)79-70%、C(可)69-60%、D(不可)60%以下  
研修員評価方法：[日本語中級] 出席・授業参加…10%、中間発表…40%、最終発表…50% [日本文化] 出席・ディスカッションへの参加…

20%、各講義・見学ごとのミニレポート(1-2 ページ) x 7 回…80%

コース評価： 研修員に対するアンケート調査および広島大学関係者による聞き取り調査によって評価

修了証明書：(1) 広島大学短期交換留学プログラム、サマースクール修了証書、並びに UMAP 成績証明書(短プロ部会長印のもの)

(2) 国際プラザ、修了証書、並びに成績証明書

## V. 2008-2009 年度 HUSA プログラム派遣留学活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も1月初旬に応募者の選考試験を行い、1月中には短期留学交流プログラム部会で選考、2～5月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集と選考に関する要旨である。

### 1. 制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、派遣先の大学において概ね1学年以内の1学期又は複数学期間教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度である。平成8年度後期から開始された。アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、韓国、ロシア、ポーランド、オーストリア、ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は、派遣先大学において授業料不徴収にて授業を受講し、単位互換を促進することを目的としており、例年、以下の条件で募集を実施している。独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）及び広島大学短期留学交流プログラム部会が審査し、選考を行っている。

### 2. 特徴：

- ・ 授業料不徴収
- ・ 単位互換制度
- ・ 現地コーディネーターのアシスタント
- ・ 短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流

### 3. 出願書類

- ①派遣申請書
- ②留学計画書
- ③TOEFL 成績表

英語能力を応募条件とする大学に留学予定の学生；530点（iBT73点）以上が

望ましい。ただし、USAC 語学文化研修応募希望者については、500 点 (iBT61) が必須条件。

注. 英語圏以外で英語能力を応募条件としない大学に留学予定の学生は、別途行う学内語学試験の成績による。

④学業成績証明書 (大学院生については、学部の学業成績証明書も含む)

#### 4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年 11 月末までに提出する。

#### 5. 面接 (口述) 試験

学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年 1 月の第 1 週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による 1 グループ 3 名程度の審査員によって実施され、審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ 5 段階評価をつけ、その平均点が最終審査会の 1 つの評価指標として使用される。

#### 6. 選考委員会の実施

例年 1 月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮しながら選考、推薦を行っている。

### VI. 2008-2009 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2008 年度の短期交換留学生派遣に関しては、20 名を推薦し、中国、マレーシア、オーストラリア、コスタリカ、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの 12 大学へ派遣した。また、2009 年 1 月には、2009-2010 年度派遣留学生の選考が行われ、すでに中国、アメリカ、カナダ、フランス、ドイツ、フィンランド、スウェーデン、スペインの 14 大学へ 22 名の学生派遣が決定している。

### VII. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

**広報活動:** 20 年度は、例年実施していた留学フェアではなく、5 月に 3 回にわたる説明会を開催した。説明会には、毎回 50 - 60 名の参加者が出席した。また、派遣留学のための協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について事務局と連携を取り HUSA ガイドブックを再編し、派遣学生へ配布すると同時に HUSA ホームページでも閲覧できるようにした。

**留学前の情報提供と留学計画の促進:** 例年、派遣が決定した本学の学生に対し 2 度に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から

来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員並びに学部との単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書を5月の第1回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに、提出するよう要求している。

**INU 特別協力講義**：派遣留学を促進するためにすでに2年間開講してきた INU 特別協力講義 A と B を今年度も開設した。INU 特別協力講義は、一般の教養科目として開講されているが、INU ネットワークを利用しアメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用し、WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの1科目を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に、授業を展開した。

## VIII. 主なその他の活動

**UMAP 活動への貢献**：本学の教育交流部門は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されている UMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業にこれまでも積極的に参加してきた。20年度は、UMAP 国際事務局並びに理事会が新たに開発した USCO (UMAP 学生交流オンラインシステム) プロジェクトのシステム開発のアドバイザーとして引き続きタイの UMAP 国際事務局を支援し、オンラインシステムの立ち上げに協力した。USCO システムを利用した UMAP 学生交流活動にも参加し、タマサート大学（タイ）とマレーシア科学大学（マレーシア）から留学生を受入れた。

## 海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

[2008年]

- 4月 \*University of Amsterdam (オランダ)より表敬訪問
- 5月 \*University of Alabama (アメリカ) 国際部より表敬訪問
- 6月 \*台湾の国立成功大学で開催されたUMAPワークショップ並びにシンポジウムに参加  
講演題目
  - ・ “Introduction of UMAP and UCTS Background Development and Operation”
  - ・ “Reality and Future Challenges of Student Mobility Schemes in Higher Education between ECTS in Europe and UCTS in Japan”
- \*国立台湾大学国際室の主催による高等教育の国際化に関する勉強会に参加  
講演題目
  - ・ “Impact of ERASMUS, ECTS and Bologna Process in European Higher Education”
- 7月 \*University of Edinburgh (イギリス) 日本事務局より表敬訪問

- 9月 \*EAIE (欧州国際教育協会) の大会に参加し、オランダ及びベルギーのボローニャ・プロセスの現状、アジアの高等教育の国際化について発表
- 10月 \*University of New England (オーストラリア)国際部より表敬訪問
- 11月 \*University of Maryland (アメリカ)Asian American Studies Program  
ディレクター表敬訪問
- 12月 \*Cardiff University (イギリス)ビジネス・スクールより表敬訪問
- \*短期交換留学プログラム運営について名古屋大学留学生センター・国際部を訪問
- \*Mahidol University (タイ) より表敬訪問
- \*中国・四国工学教育協会大学教育部会に参加  
講演題目  
・「工学英語教育の現状と課題:世界で通用する英語力を持った学生を如何に育てるか」
- \*東京外国語大学国際教育プログラム (ISEPTURS) 10周年記念シンポジウムに参加。  
講演題目  
・「“Universal” Universityになるための試み」

[2009年]

- 3月 \*QS-TOP Universities Fair (ロンドン) に広島大学代表团として出席。日本の高等教育の国際化について発表。

## 留学生センター教員研究・その他の活動業績

### 1. 研究論文・著書

浮田三郎 「比較言語文化論の視点」『日中友好の架け橋—日本語作文スピーチコンテストより—2007』, 白帝社, 2008年, pp.105-124.

銭清・浮田三郎 「日本語と中国語における『金銭』に関する諺対照比較研究2」『ニダバ』, 第38号, 西日本言語学会, 2009年, pp.108-117.

多和田眞一郎 「日本語とハングル資料—沖縄語史とハングル資料—」『日本文化學報』, 第37号, 韓国日本文化学会, 2008年, pp.63-74.

恒松直美 「スピリチュアリティの学際的研究：近代科学パラダイム批判とグローバル教育への示唆」『総合学術学会誌』, 第7号, 2008年, pp.29-36.

恒松直美 「グローバル社会におけるパラダイム・シフト—大学教育経験者の意識変容についての研究法の考察—」『広島大学留学生センター紀要』, 第19号, 2009年, pp.11-27.

恒松直美 “Gender Power under Female Leadership: A Local Women’s Association in Japan”, in Hood, Christopher P.(ed.), *Politics of Modern Japan: Critical Concepts in the Modern Politics of Asia (Critical Issues in Modern Politics)*, Vol.4, 2008, pp.392-413.

恒松直美 “Connecting Students Transcending Gender and Culture: Paradigm Shift in the Internationalization of a University in Japan”, *Ryūgakusei Kyōiku [Journal of International Education]*, No.13, 2009, pp.13-28.

中矢礼美 「各国のPISA型学力の捉え方と取り組み」『高校教育』, 第11号, 2008年, pp.22-27.

中矢礼美 「トランスナショナル・エデュケーション—インドネシアの事例から—」『広島大学留学生センター紀要』, 第19号, 2009年, pp.29-55.

深見兼孝 「日本語における時間用法としてのアト、マエ」『広島大学留学生センター紀要』,



第 19 号, 2009 年, pp.1-10.

深見兼孝 「日本語のウレシイ/タノシイと朝鮮語の kippu ta / c u l k o p t a について」『ニダバ』, 第 38 号, 西日本言語学会, 2009 年, pp.88-97.

Do Hoang Ngan・深見兼孝 「ベトナム人の大学生と卒業生が使用する聴解ストラテジーの比較-因子分析を用いて-」『TAP CHI KHOA HOC NGOAI NGU (Journal of Foreign Language Studies)』, ハノイ大学 (ベトナム), 2008 年, pp.72-84.

## 2. 学会発表

浮田三郎 「比較言語文化論-諺の世界から-」, 第 3 回日中比較言語文化研究シンポジウム (於大連大学), 2009 年 3 月 30 日.

浮田三郎 「翻訳と課題」(シンポジウム), 日本ギリシア語ギリシア文学会, 2008 年 11 月.

中矢礼美・諏訪英広 「教員評価に関する調査研究-経年比較を中心に」, 第 48 回日本教育経営学会, 名城大学, 2008 年 6 月 7 日.

Do Hoang Ngan・深見兼孝 「ベトナム人の大学生と卒業生が使用する聴解ストラテジーの比較-因子分析を用いて-」, 『第 1 回研究集会日本語教育を踏まえた日本研究への道』, ハノイ大学 (ベトナム), 2008 年 11 月 21 日.

堀田泰司 「欧州高等教育改革 (ボローニャ・プロセス) による大学改革の現状と課題: オランダ・ベルギー(フランダース地域)を中心に」, 第 44 回日本比較教育学会, 東北大学, 2008 年 6 月 29 日.

## 3. 学術研究補助金

中矢礼美 研究分担者 (平成 20 年-22 年度) 科学研究費補助金基盤研究 B 「トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究 (杉本均)」

堀田泰司 研究代表者 (平成 19-20 年度) 基盤研究 C 「ヨーロッパ高等教育改革における ECTS (欧州単位互換制度) の実践的効果と課題」

#### 4. その他の活動

##### A. 地域貢献、社会貢献

浮田三郎 財団法人石田教育振興財団評議員

浮田三郎 広島大学北京研究センター 主催 日本語作文スピーチコンテスト審査委員長

多和田眞一郎 「キワニス留学生奨学金日本語作文」審査委員長

中矢礼美 広島大学北京研究センター 主催「国際教育協力論集」(広島大学教育開発国際協力研究センター) 編集委員会委員

中矢礼美 COISAN (国立大学法人留学生指導研究協議会) 監事

中矢礼美 広島県教育委員会「広島っ子」育成事業 国際交流体験プロジェクトにおけるアドバイザー活動, 2008年10月6日, 11月11日, 12月14日.

堀田泰司 UMAP 日本国内委員会専門委員

##### B. 学会活動

浮田三郎 日本ギリシア語ギリシア文学会会長

浮田三郎 言語文化教育学会理事

浮田三郎 西日本言語学会運営委員

多和田眞一郎 日本総合学会会長

多和田眞一郎 韓国日本文化学会海外理事

多和田眞一郎 大韓日語日文学会海外理事

多和田眞一郎 韓国学研究会副会長

恒松直美 日本総合学会監事

中矢礼美 日本比較教育学会中国四国地区幹事

中川正弘 日本フランス語フランス文学会中国・四国支部編集委員長

中川正弘 広島大学フランス文学研究会参与

深見兼孝 西日本言語学会運営委員

深見兼孝 日本総合学会理事

深見兼孝 韓国学研究会理事

### C. 講演・ワークショップ等

中矢礼美 「異文化理解ワークショップ」 広島県教育委員会「広島っ子」育成事業 国際交流体験プロジェクト, 2008年8月6日.

中矢礼美 “School Based Management di Jepang”, インドネシア・ジャカルタ サンプルナ財団における教育セミナー, 2008年8月29日.

中矢礼美 “Pendidikan di Jepang—Menuju Pendidikan Yang Mengajarkan “Kemampuan Hidup””, インドネシア・ジャカルタ サンプルナ財団における教育セミナー、2009年2月22日.

堀田泰司 「Introduction of UMAP and UCTS Background Development and Operation」並びに「Reality and Future Challenges of Student Mobility Schemes in Higher Education between ECTS in Europe and UCTS in Japan」 UMAP 台湾国内大会『UMAP Taiwan Regional Meeting and Workshop on Credit Transfer Scheme and Student Exchange Program』, UMAP 台湾国内委員会主催, 国立成功大学(台南), 2008年6月12日.

堀田泰司 「Impact of ERASMUS, ECTS and Bologna Process in European Higher Education」, 国立台湾大学国際部, 台北市(台湾), 2008年6月13日.

堀田泰司 「Japanese Cultural Briefing」『Sea and Human Security』研修コース, UNITAR  
アジア太平洋地域広島事務所主催, 広島市, 2008年9月29日.

堀田泰司 「Japanese Cultural Briefing」『Fellowship for Afghanistan』研修コース, UNITAR  
アジア太平洋地域広島事務所主催, 広島市, 2008年11月3日.

堀田泰司 「国際カリキュラム開発の条件：広島大学の経験」研究会『工学英語教育の現状と  
課題：世界で通用する英語力を持った学生を如何に育てるか』, 中国・四国工学教育  
協会大学教育部会主催, 愛媛大学, 2008年12月3日.

堀田泰司 「『Universal』 University になるための試み」東京外国語大学国際教育プログラム  
(ISEPTURS) 10周年記念シンポジウム『日本と世界を結ぶ架け橋を目指して』, 東  
京外国語大学, 2008年12月19日.

#### D. その他の教育活動

浮田三郎 公開講座 「現代ギリシアのことばと文化 (5)」, 広島大学, 2008年5月26日～6  
月30日 (5回) .